

## 第 6 章

### 病原体定点調査成績

ウイルス検出状況

横浜市衛生研究所  
(平成11年1月~12月)

ウイルス	採取月												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
Influenza	AH1											3	3
	AH3	30	17	2								9	58
	B	14	42	7	3								66
Coxsackie A	2								2	2			4
	4								3				3
	6						1		1		1		3
	7								1				1
	8								1				1
	10								1		1		2
	16			1					2				3
Coxsackie B	3						1		1				2
	4						1	1	1	2	2		7
	5						1	2	2				5
	6						1						1
ECHO	3								1				1
	6							1	1		4		6
	22									1			1
Polio	1										1		1
Adeno	1		2										2
	2			2		1	2		1		1	1	8
	3	1							1				2
	4	1		1							1		3
	5					1							1
	6	1											1
	7										1		1
	8										1		1
	19				1		1		1	1			4
	(型未同定)										2		2
Parainfluenza	1					1	2	1	8	1			13
	3			3	3	9	1	4	3	4	10	1	38
RSV	6	4	1						2	13	22	32	80
Mumps									2				2
HSV-1		1	1		1		1			2			6
未同定					6	7	4	2					19
合計	53	64	14	10	11	19	15	14	33	27	45	46	351

ウイルス検出状況

横浜市衛生研究所  
(平成12年1月~12月)

ウイルス	採取月												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
Influenza AH1	22	25	2			1			1				51
Influenza AH3	14	11	1	2		1							29
Coxsackie A	1							2					2
	5					3	5	2	1				11
	6				1	3	5	1					10
	7				1	1	6	1					9
	9								2				2
	10					3	3	2					8
	16						1						1
Coxsackie B	1	1						1					2
	2							1					1
	3							1	3	1		1	6
	4							1	2	1			4
	5							1		2	1		4
ECHO	3									1			1
	4										1		1
	6									1			1
	30							1					1
Polio	1										1		1
Entero	71						1	6					7
Adeno	1	1		1	3					1	1	1	8
	2	1	2		1	4	2	3	1	2	1		17
	3							1	1	1	2	6	11
	4							1	1			3	5
	5	3		2		2					1		8
	7											1	1
	8		1			1	4		1		1		8
	19				1								1
(型未同定)		1		1									2
Parainfluenza	1				2			1	1				4
	2					2			5	9	4	1	21
	3				3	1	1						5
Measles					3	2							5
RSV		3	1	11	2	2		1	1	3	14	11	49
Mumps				3	1	1	1	1					7
HSV-1				2	1		1		1		1	1	7
Rhino				3	6	7				1	4		21
ROTA			2										2
SRSV		1											1
未同定		2		2			2	2		2		6	16
合計	46	43	16	18	25	33	41	22	20	24	32	31	351

ウイルス検出状況

横浜市衛生研究所  
(平成13年1月~12月)

ウイルス	採取月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Influenza	AH1		16	16	1									33
	AH3	1	1	3	2							1	8	
	B	3	8	16	5								32	
Coxsackie A	2					1	7						8	
	4						1	1					2	
	5					2	6						8	
	6						1						1	
	8							1					1	
Coxsackie B	2							1					1	
	3	1											1	
	5					2	1	1					4	
ECHO	3								1	1			2	
	7					1							1	
	11									1			1	
	12		1										1	
	21	1											1	
	25	1	1										2	
30		1										1		
Adeno	1	1	1									1	3	
	2	1	1	1	1					1	2		7	
	3	3	1	5	2	2	3	1					17	
	4	1	1										2	
	6		1										1	
	8					1				1			2	
	19								1	1			2	
(型未同定)							1		1				2	
Parainfluenza	2			1									1	
	3				1		1		1				3	
RSV	5	1	1		1	1	2	1	1	3	14	15	45	
Mumps	1												1	
HSV-1		1			2				1				4	
Rhino	1	1		1	1	1	1		1	2			9	
ROTA			2										2	
NLV												1	1	
未同定	1			2		4	1		1			1	10	
合計	21	36	44	12	9	14	26	5	8	10	16	19	220	

ウイルス検出状況

横浜市衛生研究所  
(平成14年1月~12月)

ウイルス	採取月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Influenza	AH1	5	14	3										22
	AH3	14	29	24	2								13	82
	B		1	6	1									8
Coxsackie A	3					3	1							4
	4			3		2	6		1					12
	5								2					2
	6					1	3	2	1					7
	7						1							1
	10							1						1
	16							2						2
Coxsackie B	2					1	1	1	1	2				6
	4								1		2			3
	6									1				1
ECHO	6										1			1
	13							1						1
	30						1							1
Polio	1									1				1
	2										1			1
(Entero 未同定)	2						1		2	1				6
Adeno	3				1					1	3	1		6
	4			1										1
	5			1	2		1				1			5
	(型 未同定)						1					1		2
RSV	4			1		1	2	1	1	4	7	11		32
Mumps				1			1	1						3
HSV-1						1	1							2
Rhino											2	1		3
未同定				3	1	5	2	4	10	6	6	4		41
合計	25	44	35	11	4	15	24	10	19	17	22	31		257

ウイルス検出状況

横浜市衛生研究所  
(平成15年1月~12月)

ウイルス	採取月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Influenza AH3	49	6	2										6	63
B	9	30	33	5									2	79
Coxsackie A	2					1	1	1				1		4
4								1	1			1	1	4
5							2							2
6							1							1
9							1							1
10							2	1	3	2				8
12						1	1							2
Coxsackie B	1							2	2	1		1	1	7
2													1	1
Entero	71									1				1
ECHO	7							1						1
18											1			1
30										1				1
Polio	2										1			1
(Entero 未同定)								3	5	1	1	1	1	11
Adeno	1		1					1	1				1	4
2			2	1	3	1					1		2	10
3					1	6		1				1		9
4												1		1
5								1	1					2
6									1					1
(型 未同定)			1	1		1	1	1	1	2	1	2	2	11
RSV	3	1			1	1						4	11	21
HSV-1												1	1	2
Rhino			1									2	2	5
未 同 定	2		2	2		7	2	3	8	7	1	4		38
合 計	63	37	42	9	5	18	15	16	22	15	15	35		292

ウイルス検出状況

横浜市衛生研究所  
(平成16年1月~12月)

ウイルス	採取月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Influenza AH3	45	33	4										2	84
Influenza B	1	1	4	3									1	10
Coxsackie A	2										1			1
Coxsackie B	1								1	1				2
	3						1		2	2				5
	4						1							1
	5							1						1
ECHO	3								2			1		3
	6					2					1			3
Polio	1										1			1
	2										1	1		2
Adeno	1		1	2			1	1						5
	2						1	1						2
	3	1		1	1	1								4
	7											1		1
	37							3						3
(型未同定)			1				1					2		4
Parainfluenza	1								3	2			1	6
	2							1	1		2	1	1	6
RSV	1	1			1	1		1	1	3	10	16		35
Rhino				3	2		2	9	6	8				30
未同定	1	4	2			2	10	6	6	6	1			38
合計	48	40	12	9	6	7	20	23	18	26	17	21		247

## 1999年10月から2000年4月

### 集団かぜ流行調査

インフルエンザによる集団かぜの初発は2000年1月18日(第3週)に緑区、戸塚区、青葉区の小学校1年生クラスと栄区の幼稚園、保育園で同時に報告があった。その後第4週には7区で集団かぜ発生が集中し、終息までの発生数は13区49施設156学級となった。発生の中心は幼稚園、保育園で、学級閉鎖数全体の76.3%を占める119学級であった。検査依頼のあった14集団56人についてウイルス学的調査を実施し、13集団からAソ連型ウイルスが分離またはRT-PCRにより遺伝子が検出され、残り1集団も血清抗体調査からAソ連型ウイルスの感染が証明された。

### 定点ウイルス調査

1999年9月より定点数が17(小児科:9、内科:4、病院:3、眼科:1)となった。

1999年10月から2000年4月までにAソ連型ウイルス43株、A香港型ウイルス51株合計94が分離・検出された。このうちA香港型については1999年12月13日(第50週)の港北区定点検体からウイルスが2株分離され、第9週までほぼ連続して分離された。また、流行が終息した4月に入ってから2株が分離・検出された。一方、Aソ連型は12月27日(第52週)に港北区と磯子区の定点検体からはじめて分離され、第5週をピークとして第10週まで分離された。分離されたウイルスの抗原性を検討したところ、A香港型ウイルスはワクチン株であるA/Sydney/05/97に類似していた。一方、Aソ連型ウイルスの抗原性状はA/Beijing/262/95(ワクチン株)ウイルスより2~3管差があるA/NewCaledonia/20/99様ウイルスが分離された。また、1月第3週に集団かぜから分離されたA/横浜/24/2000はA/Beijing/262/95やA/NewCaledonia/20/99とも異なったA/Johannesburg/82/96様ウイルスであった。(詳細は横浜衛研年報第39号 p83~86 ノート参照)

## 2000年9月から2001年4月

### 集団かぜ流行調査

インフルエンザによる集団かぜの初発は2001年2月22日(第8週)に保土ヶ谷区の幼稚園で報告があった。市内における集団かぜ発生数は6施設8学級に留まった。施設別では幼稚園・保育園が3施設、小学校が1施設と低年齢層であった。検査依頼のあった2集団10人についてウイルス学的調査を実施し、初発集団の1名からAソ連型ウイルスが分離され、1名は血清抗体検査からAソ連型ウイルスの感染が証明された。

### 定点ウイルス調査

2000年9月から2001年4月までにAソ連型ウイルス36株、A香港型ウイルス9株、B型ウイルス36株合計81株が分離・検出された。このうちA香港型については2000年12月25日(第52週)に金沢区で採取された定点検体からウイルスが1株分離され、第9週および第12週以降8株分離・検出された。Aソ連型については2000年9月25日(第39週)に栄区の定点検体からはじめてRT-PCRによりインフルエンザ遺伝子が検出された。その後、2001年1月第3週まではRT-PCRによる遺伝子検出のみであったが、4週以降13週までAソ連型ウイルスが分離された。一方、B型ウイルスは2001年1月22日(第4週)に鶴見区定点から1シーズンぶりに分離され、第15週まで毎週分離された。分離されたウイルスの抗原性を検討したところ、A香港型ウイルスはワクチン株であるA/Panama/05/97に類似しており、また、Aソ連型ウイルスはワクチン株であるA/NewCaledonia/20/99に類似していた。一方、B型ウイルスはワクチン株であるB/山梨/166/98に反応したが、国立感染症研究所による抗原分析結果からB/Johannesburg/5/99類似株であることが解った。(詳細は横浜衛研年報第40号 p65~68 ノート参照)



## 2001年10月から2002年4月

### 集団かぜ流行調査

インフルエンザによる集団かぜの初発は2002年1月23日(第4週)に港北区の幼稚園から報告があった。その後第8週まで報告が続き、終息までの発生数は5区8施設24学級となった。小規模な発生状況の中で2月5日(第6週)の泉区中学校の事例は在籍者316名中患者210名、欠席者112名にもおよび、1年生8学級をすべて閉鎖した大規模な発生であった。検査依頼のあった5集団21人についてウイルス学的調査を実施し、2集団からAH3型ウイルスが分離またはAH3型ウイルスの遺伝子が検出され、1集団は血清抗体調査からAH3型ウイルスの感染が証明された。また、2集団はAH1型ウイルスが分離されたが、前事例の1集団は新しいサブタイプのAH1N2型ウイルスであった。

### 定点ウイルス調査

2001年10月から2002年4月までにAH3型ウイルス68株、AH1型ウイルス24株、B型ウイルス8株合計100株のウイルスが分離またはウイルス遺伝子が検出された。このうちAH3型ウイルスについては2001年12月24日(第52週)の瀬谷区定点検体から1株分離され、2月第6週をピークとして4月第14週まで連続して分離された。また、AH1型ウイルスは2002年1月7日(第2週)に瀬谷区定点検体からはじめて分離され、3月第12週まで分離された。一方、B型ウイルスは2002年2月25日(第9週)に港南区定点検体からはじめて分離され、流行が終息した4月第15週まで分離された。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH3型ウイルスはワクチン株であるA/Panama/2007/99に類似していた。また、AH1N1型とAH1N2型ウイルスの抗原性状はAH1型ワクチン株であるA/NewCaledonia/20/99に類似していた。一方、B型ウイルスは山形系統のB/Johannesburg/5/99(ワクチン株)に類似したウイルスとワクチン株とは抗原性が異なるVictoria系統のウイルスが混在していた。(詳細は横浜衛研年報第41号 p53~58 ノート参照)

## 2002年11月から2003年4月

### 集団かぜ流行調査

インフルエンザによる集団かぜの初発は2003年1月14日(第3週)に港北区の中学校から報告があった。その後第7週まで報告が続き、終息までの発生数は14区50施設201学級となった。検査依頼のあった13集団48人についてウイルス学的調査を実施し、4集団からAH3型ウイルスが分離又はAH3型ウイルスの遺伝子が検出され、6集団はB型ウイルスが分離された。また、3集団はAH3型ウイルスとB型ウイルスが分離された混合流行であった。

### 定点ウイルス調査

2002年11月から2003年4月までにAH3型ウイルス71株、B型ウイルス75株合計146株のウイルスが分離又はウイルス遺伝子が検出された。このうちAH3型ウイルスについては2002年12月5日(第49週)の金沢区定点検体から1株ウイルス遺伝子が検出され、翌週の12月16日には青葉区定点検体から1株分離された。その後1月第3週をピークとして3月第12週まで分離が続いた。他方、B型ウイルスは2003年1月14日(第3週)に保土ヶ谷区定点検体からはじめて分離され、AH3型ウイルスと混合しながら3月第11週をピークとして4月第16週までウイルス分離及びウイルスの遺伝子が検出された。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH3型ウイルスのほとんどはワクチン株であるA/Panama/2007/99に類似していたが、流行後期に分離された2株はワクチン株と抗原性が大きく異なっていた。一方、B型ウイルスの多くはVictoria系統のB/Shandong/07/97(ワクチン株)に反応したウイルスであったが、3株はワクチン株とは抗原性が異なる山形系統のウイルスであった。(詳細は横浜衛研年報第42号 p57~62 ノート参照)

## 2003年11月から2004年4月

### 集団かぜ流行調査

インフルエンザによる集団かぜの初発は2004年1月20日(第4週)に西区の高等学校から報告があった。各区の集団かぜ発生はこの週に集中し、終息までの発生数は10区26施設68学級であった。検査依頼のあった10集団30人についてウイルス学的調査を実施し、7集団からAH3型ウイルスが分離又はその遺伝子が検出され、1集団は血清抗体調査からAH3型ウイルスの感染が証明された。

### 定点ウイルス調査

2003年11月から2004年4月までにAH3型ウイルス88株、B型ウイルス10株合計98株のウイルスが分離又は遺伝子が検出された。このうちAH3型ウイルスについては2003年12月4日(第49週)の金沢区定点検体から1株分離され、翌々週の12月20日には港北区定点検体から2株分離された。その後1月第4週をピークとして3月第10週まで分離が続いた。他方、B型ウイルスは2004年12月15日(第51週)に鶴見区定点検体からはじめてウイルス遺伝子が検出され、翌週には港北区定点検体からも遺伝子が検出された。年明け後は2月第8週に港北区定点からはじめて分離され、AH3型と入れ替わると思われた。しかし、その後分離されたのは3株で、4月以降はウイルス遺伝子が2検体より検出されたのみであった。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH3型ウイルスはワクチン株であるA/Panama/2007/99より少し抗原性が異なったA/熊本/102/2002類似株であったが、ワクチン株より抗原性が大きく異なった株が9株みられた。一方、B型ウイルスはVictoria系統のB/Shandong/07/97(ワクチン株)に反応せず、全て抗原性が異なる山形系統のB/Johannesburg/5/99に類似したウイルスであった。(詳細は横浜衛研年報第43号 p59~64 ノート参照)

## 2004年11月から2005年5月

### 集団かぜ流行調査

インフルエンザによる集団かぜの初発は2004年11月25日(第47週)に港北区の幼稚園から報告があった。その後、2005年1月第4週から3月上旬まで続き、終息までの発生数は13区30施設132学級であった。検査依頼のあった8集団35人についてウイルス学的調査を実施し、2集団からAH3型ウイルスが分離またはその遺伝子が検出され、6集団はB型ウイルスが分離された。また、集団かぜ調査以外では4月9日(第14週)に港北区の特別老人ホームにおいて感染症発生報告があり、ウイルスの調査を行った結果、インフルエンザAH3型ウイルスの遺伝子が3件検出された。

### 定点ウイルス調査

2004年11月から2005年5月までにAH3型ウイルス56株、B型ウイルス73株合計129株のウイルスが分離または遺伝子が検出された。このうちAH3型ウイルスについては2004年12月27日(第53週)の港南区定点検体から2株分離された。その後2月第9週をピークとして5月第22週まで分離された。他方、B型ウイルスは2004年12月2日(第49週)の金沢区定点検体から1株分離された。その後1月第6週をピークとして4月第14週まで分離された。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH3型ウイルスはワクチン株であるA/Wyoming/03/2004類似株であった。一方、B型ウイルスは山形系統のB/Johannesburg/5/99に類似したウイルスであった。

過去6シーズンのインフルエンザ集団かぜ発生報告

2000年1月18日～2月14日

区分	施設数	学級閉鎖数	欠席者数	患者数	学級在籍数
幼稚園・保育園	23	119	1,004	1,242	3,290
小学校	22	31	42	691	1,652
中学校	1	6	55	98	235
高等学校	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
計	46	156	1,101	2,031	5,177

2001年2月22日～3月13日

区分	施設数	学級閉鎖数	欠席者数	患者数	学級在籍数
幼稚園・保育園	3	5	60	53	143
小学校	3	3	35	61	91
中学校	0	0	0	0	0
高等学校	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
計	6	8	95	114	234

2002年1月23日～2月19日

区分	施設数	学級閉鎖数	欠席者数	患者数	学級在籍数
幼稚園・保育園	3	6	56	68	148
小学校	3	6	81	113	200
中学校	2	12	165	321	478
高等学校	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
計	8	24	302	502	826

2003年1月14日～2月28日

区分	施設数	学級閉鎖数	欠席者数	患者数	学級在籍数
幼稚園・保育園	9	30	256	269	771
小学校	25	100	1,195	1,974	3,335
中学校	11	63	594	1,084	2,418
高等学校	5	8	67	136	241
その他	0	0	0	0	0
計	50	201	2,112	3,463	6,765

2004年1月19日～3月9日

区分	施設数	学級閉鎖数	欠席者数	患者数	学級在籍数
幼稚園・保育園	3	6	52	53	126
小学校	6	15	129	241	481
中学校	11	34	445	703	1,466
高等学校	4	5	63	95	186
その他	2	8	26	28	75
計	26	68	715	1,120	2,334

2004年11月25日～2005年3月4日

区分	施設数	学級閉鎖数	欠席者数	患者数	学級在籍数
幼稚園・保育園	12	33	301	330	994
小学校	14	30	346	515	975
中学校	2	4	26	75	146
高等学校	0	0	0	0	0
その他	2	65	69	85	254
計	30	132	742	1,005	2,369

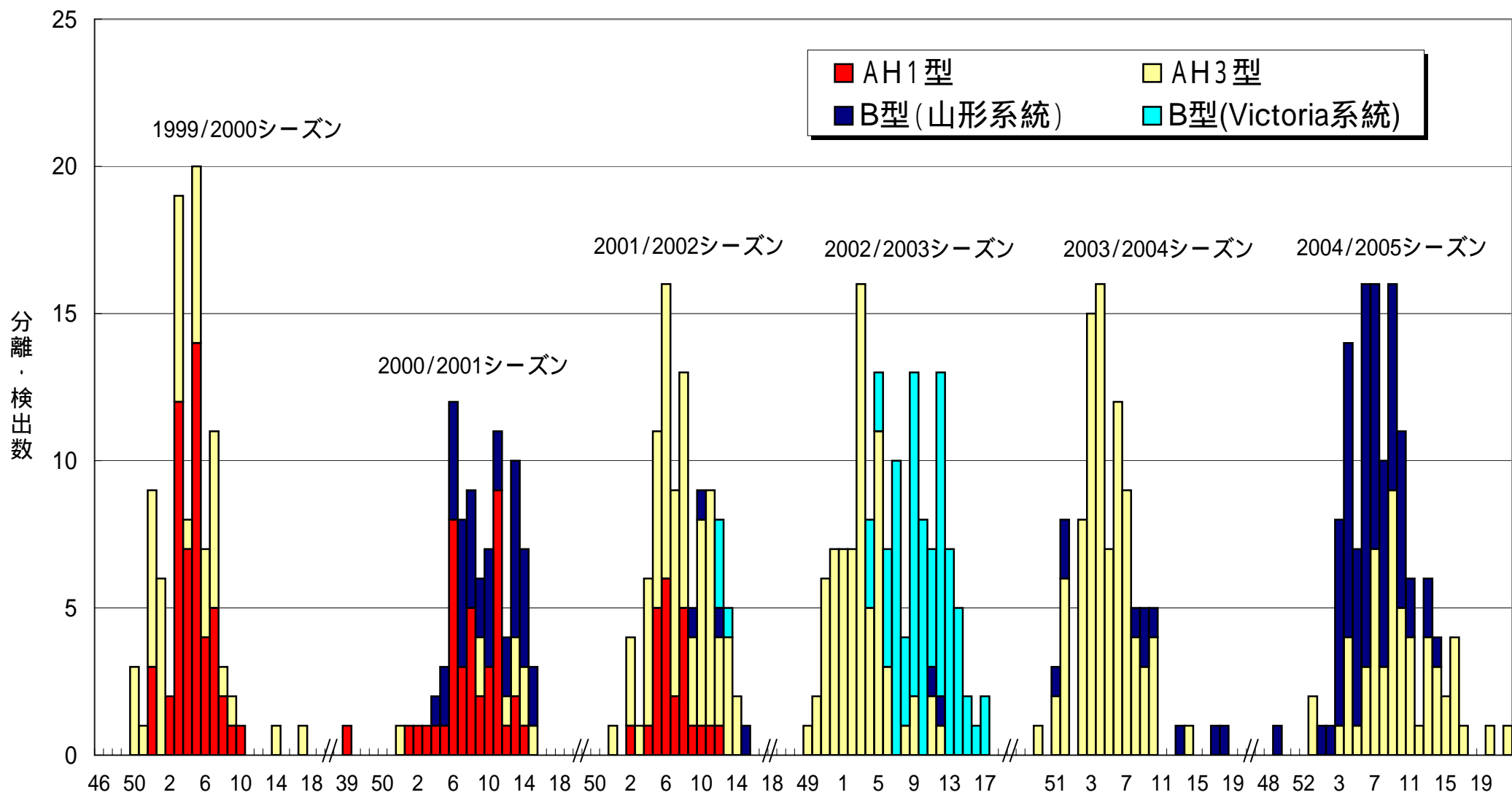


図1 過去6シーズンのインフルエンザウイルス分離・検出数(定点)

図2 AH1型  
HA遺伝子NJ系統樹  
1032bp

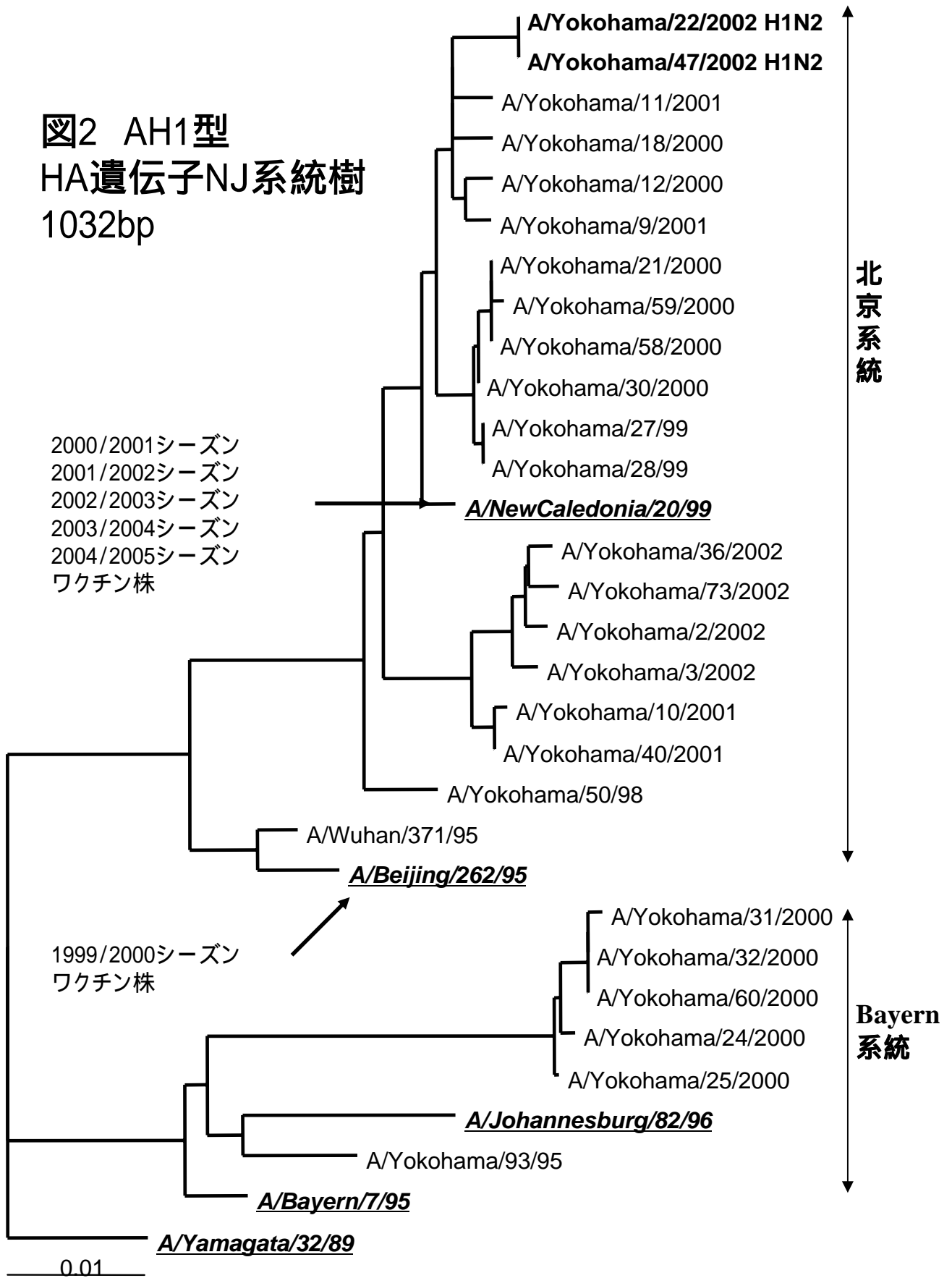


図3 AH3型  
HA遺伝子NJ系統樹  
987bp

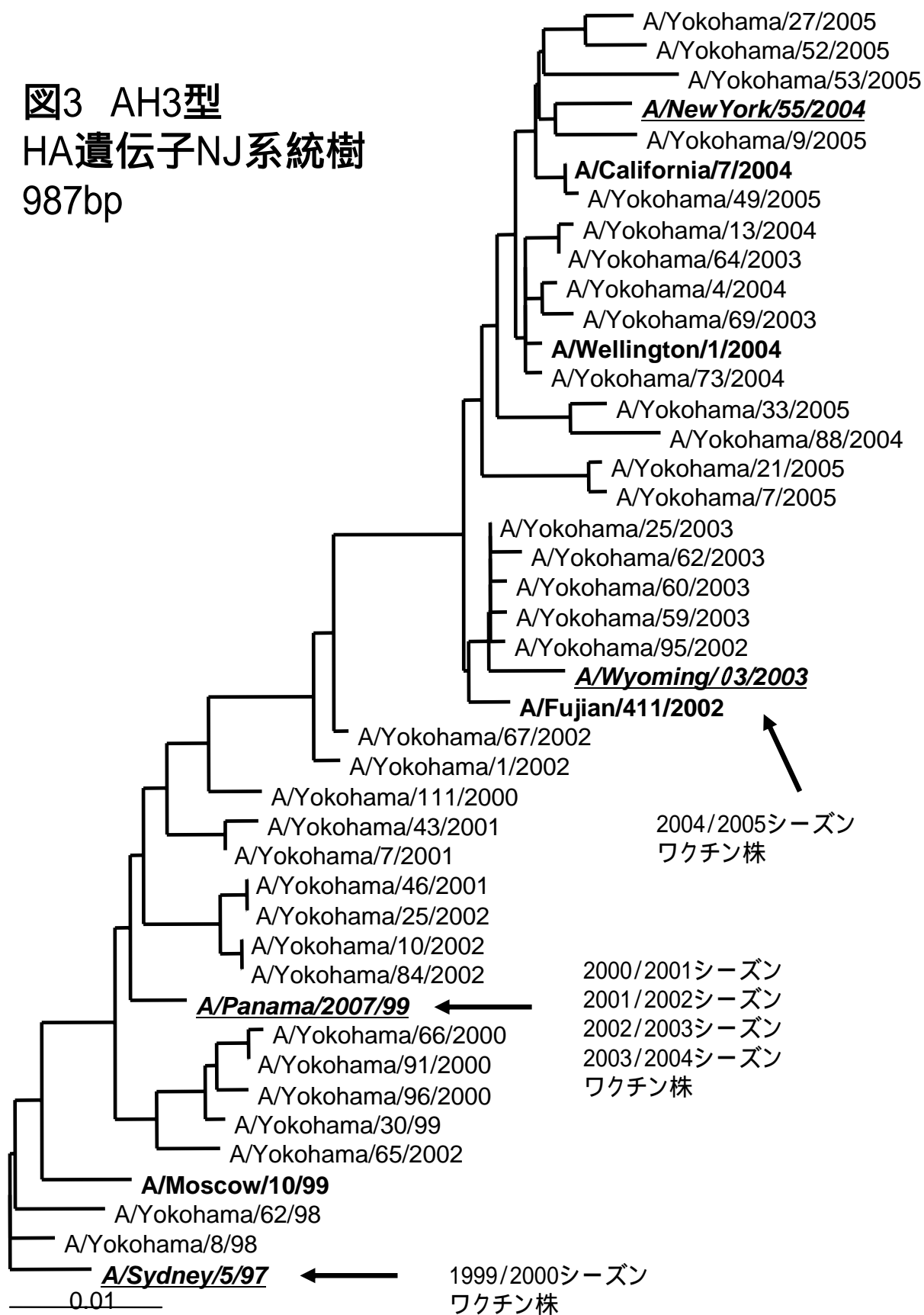
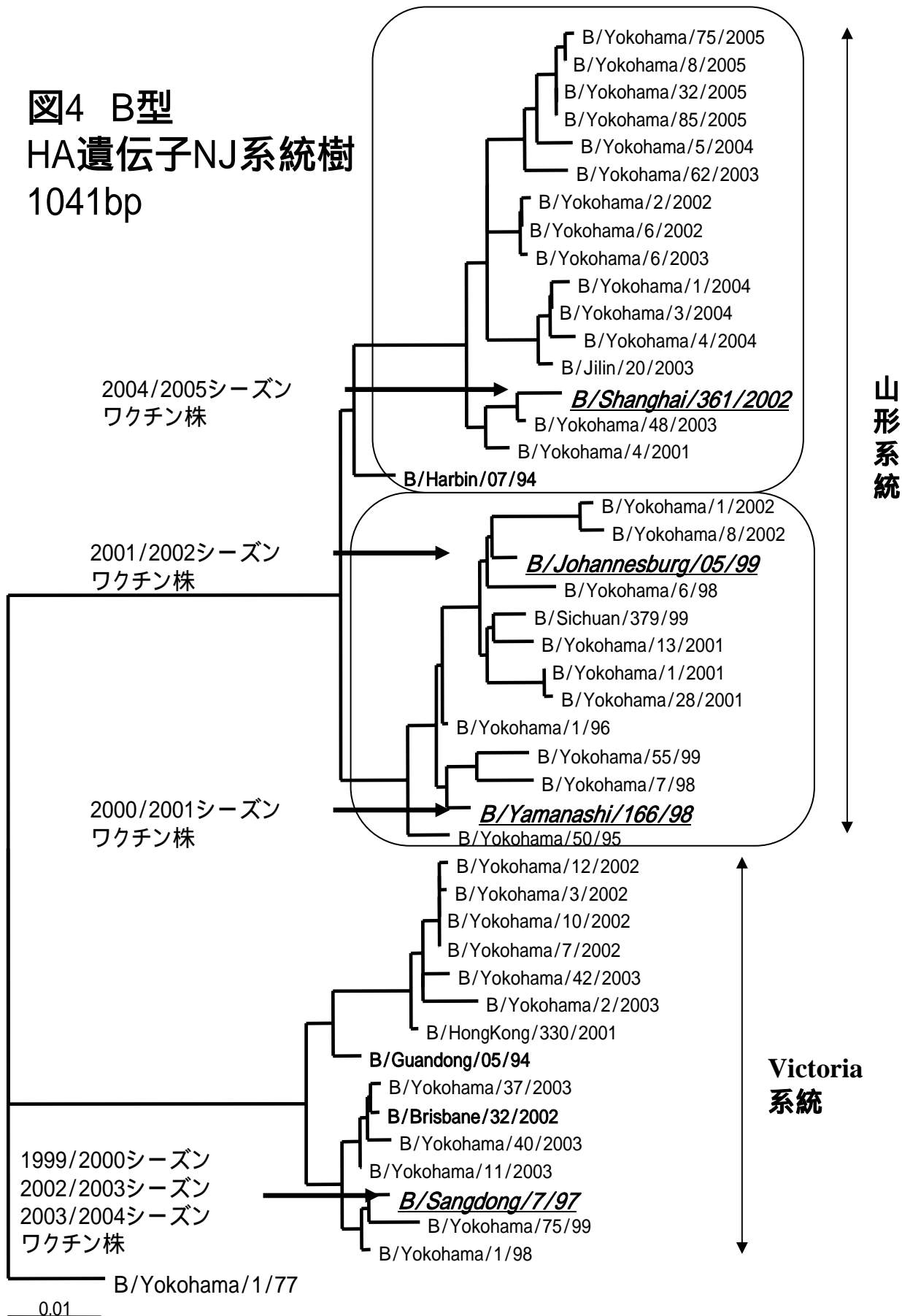


図4 B型  
HA遺伝子NJ系統樹  
1041bp



## インフルエンザウイルスの遺伝子解析

ダイレクトシーケンス法により HA1 遺伝子の塩基配列を決定し、Neighbor-joining 法により系統解析を行った。

### AH1 系統樹(図 2)

A/山形/32/89 以降の各シーズンウイルス株について HA1 遺伝子 1032 塩基を用いて系統樹を作成した。

AH1 型ウイルスの進化パターンは 1995 年以降 A/Johannesburg/82/96 で代表される Bayern 系統と A/NewCaledonia/20/99 で代表される北京系統に分かれるが、1999/2000 シーズン分離株のうち 5 株(A/横浜/24/2000 他)はこれまで欧米を中心に流行していた Bayern 系統のウイルスであった。一方、1999/2000 シーズンから 3 シーズン連続で分離され株は北京系統のウイルスであったが、2001/2002 シーズンには AH3 型とのリアソータント(再集合)である新型の H1N2 ウイルスが国内で初めて分離された。

### AH3 系統樹(図 3)

A/Sydney/5/97 以降の各シーズンウイルス株について HA1 遺伝子 987 塩基を用いて系統樹を作成した。

1999/2000 シーズンから 2001/2002 シーズンの 3 シーズンに分離した株は A/Panama/2007/99 に近縁であったが、2002/2003 シーズン以降分離された株は A/Wyoming/03/2003 で代表される福建型のウイルスであった。2004/2005 シーズンの分離株は A/Wyoming/03/2003 に近縁なグループと A/California/7/2004 や A/New York/55/2004 に近縁のグループに分かれ、より進化が進んでいた。

### B 型ウイルス(図 4)

B/横浜/1/77 を基に各シーズンウイルス株について HA1 遺伝子 1041 塩基を用いて系統樹を作成した。

B 型ウイルスの進化系統樹は大きく山形系統と Victoria 系統の 2 つの枝に分かれ、さらに、山形系統は 2000/2001 シーズンのワクチン株である B/Johannesburg/5/99 で代表されるグループと 1994 年以降分岐した B/Harbin/07/94 で代表されるグループに分かれる。山形系統のウイルスは 2000/2001 シーズンから 2004/2005 シーズンまで 5 シーズン連続で分離されたが、流行となったのは 2000/2001 シーズンと 2004/2005 シーズンであった。また、Harbin グループは 2000/2001 シーズンに初めて B/横浜/4/2001 が分離され、2002/2003 シーズン以降は山形系統の中でも主流グループとなった。一方、Victoria 系統のウイルスは 2001/2002 シーズンに散発で 8 株分離されたのみであったが、翌 2002/2003 シーズンはこの系統のウイルスが流行した。



## 無菌性髄膜炎

1999年～2004年までの過去6年間における髄膜炎関連の取扱件数は総数88検体で、その内の1検体は細菌性髄膜炎の臨床診断がありました。年度別および検体の種類別の取扱件数とウイルス分離・検出件数を表1に示しました。また、ウイルス分離・検出のできた検体を種類別にみると、ポリオ、コクサッキー、エコー、エンテロを含むエンテロウイルス属は、咽頭ぬぐい液からは83.3% (5/6)、便からは100% (4/4)、髄液からは76.9% (10/13)でした。エンテロウイルス属以外としては、咽頭ぬぐい液からパラインフルエンザウイルス1株と髄液からムンプスウイルス3株が分離されました(表2)。

過去6年間の月別の分離・検出状況を表3に示します。夏場の7月から9月に依頼件数が多く、分離率も高率です。また、ウイルス検査で陽性となった患者について、検体の種類別のウイルス分離・検出状況を表4に示します。

表1 各年度の検体種類別の検体取扱件数とウイルス分離検出状況

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	総計
依頼件数	9	28	12	25	10	4	88
分離検出件数	4	5	0	7	6	1	23
咽頭ぬぐい液	3	0	0	1	2	0	6
便	0	3	0	1	0	0	4
髄液	1	2	0	5	4	1	13

表2 検体の種類別の分離・検出状況

咽頭ぬぐい液の分離検出	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
CoxB-1					1	
CoxB-3		1				
CoxB-5		1				
Echo-13				1		
EV71					1	
para-3		1				
便の分離検出	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
CoxB-2				1		
Entero71(PCR)			2			
Entero(PCR)			1			
髄液の分離検出	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
Mumps	1	2				
CoxA-10					1	
CoxA-12(PCR)					1	
CoxB-2				1		
Echo-13				4		
Entero71(PCR)					1	
Entero(PCR)						1
CoxB-1					1	

表3 年度別月別の依頼件数と分離・検出状況

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	total
1月			2				2
2月		1	1				2
3月				1			1
4月		1	2			1	4
		mumps①					
5月		1	1	2		1	5
6月		4	1		1		6
		EV71①			EV71①		
7月		10	1	5	3	1	20
		EV71① mumps① Entero(PCR)①		Echo13②	CA12①		
8月		3	2	7	2		14
				Echo13③	CB1①		
9月	3	6	2	4	4		19
	CB3①, CB5①, mumps①			CB2②	CA10①, CB1①, EV71①		
10月	2			4		1	7
	para3①					Entero①	
11月	4			2			6
12月		2					2
	9	28	12	25	10	4	88

表4 患者別の分離・検出状況

年	患者No	衛研No	歳	カ月	診断名	発熱	臨床症状	材料の種類	分離ウイルス
1999年	1	HC-3	0	1	無菌性髄膜炎	39.0	髄膜炎	咽頭ぬぐい液 髄液	CoxB-3
	2	HC-2	5日齢		無菌性髄膜炎	38.5	髄膜炎	咽頭ぬぐい液 便	CoxB-5
	3	HC-4	0日齢		無菌性髄膜炎の疑い	37.6	髄膜炎	咽頭ぬぐい液 髄液	para-3
	4	HF-1	5	4	無菌性髄膜炎	39.2	髄膜炎 頭痛 嘔吐	髄液	Mumps
2000年	1	HC-29	3	9	手足口病・髄膜炎	39	髄膜炎 水泡・丘疹 口内炎	咽頭ぬぐい液 便 髄液	Entero71(PCR)
	2	HC-32	2	8	手足口病・髄膜炎	39.7	発疹・水泡 胃腸炎 嘔吐	咽頭ぬぐい液 便 髄液	Entero71(PCR)
	3	HO-71	6		無菌性髄膜炎	+	髄膜炎	咽頭ぬぐい液 便	Entero(PCR)
	4	HF-9	2	1	無菌性髄膜炎	40.1	髄膜炎 流行性耳 腫脹	髄液	Mumps
	5	HF-13	9		髄膜炎,Mumpus	40.0	髄膜炎 リンパ節腫脹	髄液	Mumps
2002年	1	HO-309			無菌性髄膜炎			咽頭ぬぐい液 髄液	Echo-13
	2	HN-12	11		無菌性髄膜炎	39	嘔吐	咽頭ぬぐい液 便 髄液	CoxB-2
	3	HO-312	0	1	無菌性髄膜炎			咽頭ぬぐい液 便 髄液	CoXB-2
	4	HC-57	5	3	無菌性髄膜炎	38.9		髄液	Echo-13
	5	HC-62	12	7	髄膜炎	38.4	筋肉痛 上気道炎	髄液	Echo-13
	6	HC-63	4	11	髄膜炎	37.8	頭痛 嘔吐	髄液	Echo-13
	7	HC-67			髄膜炎			髄液	Echo-13
2003年	1	HO-793	1	1	無菌性髄膜炎,手足口病	39.0	口内炎 水泡 痙攣	咽頭ぬぐい液	Entero71
	2	HC-77	8	5	髄膜炎	39.0	頭痛	髄液	CoxA-10
	3	HO-788	9	7	無菌性髄膜炎			髄液	CoxA-12(PCR)
	4	HO-792	5日齢		無菌性髄膜炎,DIC	38.0	髄膜炎 痙攣 出血傾向	髄液	CoxB-1
	5	HO-786	6	0	無菌性髄膜炎			髄液	Entero71(PCR)
	6	HC-72	0	0	細菌性髄膜炎	38.7	チノア-セ	髄液	CoxB-1
2004年	1	HO-1286	5	2	無菌性髄膜炎	38.0	髄膜炎	髄液	Entero(PCR)

下痢症分離状況

1999

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数		2	2	2	4	2	13	1	0	6	3	3
カンピロバクター					1							

2000

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数		2	2	3	4	2	2	5	4	3	2	2
カンピロバクター					1				1			
サルモネラ			1					1				
<i>Plesiomonas shigelloides</i>			1									

2001

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数		0	2	3	1	0	5	1	0	0	0	11
カンピロバクター							1					1
サルモネラ							1					1
<i>Plesiomonas shigelloides</i>												

2002

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数		6	8	3	4	0	1	1	2	1	0	1
カンピロバクター												2
サルモネラ												
<i>Plesiomonas shigelloides</i>												

2003

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数		7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カンピロバクター												
サルモネラ												
<i>Plesiomonas shigelloides</i>												

2004

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数		17	5	16	10	10	16	29	17	18	17	14
カンピロバクター												
サルモネラ												
<i>Plesiomonas shigelloides</i>												
病原性大腸菌		3		1				1	1			1
腸管凝集性大腸菌				1	2							1
毒素原性大腸菌							1		2	1	2	1
腸管出血性大腸菌								1				1

## 呼吸器

1999

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数	/	/	/	/	/	/	/	/	7	1	7	15
A群溶血性連鎖球菌									2		2	1
インフルエンザ菌											1	
パラインフルエンザ菌											2	

2000

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
検体数		1	1	2	1	1	5	0	3	1	1	2	0
A群溶血性連鎖球菌			1	1			2			1		1	
C群溶血性レンサ球菌						1							
G群溶血性レンサ球菌									1				
Enterobacter cloacae										1			
黄色ブドウ球菌										1			

2001

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
検体数		0	1	2	10	2	0	0	0	0	0	0	1
A群溶血性連鎖球菌					2					1			
G群溶血性レンサ球菌					1								
Haemophilus parainfluenzae				1									
黄色ブドウ球菌					1								

2002

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
検体数		2	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0
A群溶血性連鎖球菌		1											
G群溶血性レンサ球菌													
黄色ブドウ球菌		1											

2003

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
検体数		0	0	0	0	3	7	3	0	0	0	0	0
A群溶血性連鎖球菌						3	6	3					
G群溶血性レンサ球菌													

2004

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体数					1	0	1	1	0	0	1	4
A群溶血性連鎖球菌					1		1	1			1	3
G群溶血性レンサ球菌												